

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

りべら

2012.10

126

号

特集:岩手・釜石へ行こう!

被災地のエコツーリズム体験ツアー…1

廃油キャンドルでキャンドルナイト…3

【新連載】釜石 あづまっぺ! 通信…4

呼吸を楽にしませんか? 体験! 呼吸リハビリテーション…5

四日市と倉敷の公害裁判資料を整理しています…7

忙中一筆 廣野克俊…8

西淀川記憶あつめ隊: 浜田しづゑさん…9

ぶらりゆると西淀川めぐり ホットと一息つけるコーヒー&スイーツ…10

【新連載】柏里の虹色コラム…10

市民・地域が進める再生可能エネルギー普及…11

あおぞら広場…13



●中村哲也さん(社員)

暗く、沈んだムード。「被災」という話題を出すのをためらう風潮で人が居ない静かな、殺伐とした風景を想像していました。実際に訪れてみると明るく元気なイメージで、皆が団結して生きてゆくパワーを感じました。

参加者の声

●山崎翔子さん(大阪経済大学4年)

地域復興のため、自身の長所等を活かして活動する地元の方の強い思いに感動しました。このツアーで感じた釜石の魅力、また自分の目で見た現状を周りの人たちに伝えたいです。



第2回 被災地のエコツーリズム体験ツアー ～秋の釜石を見に行きませんか？

5月には菜の花が咲き、夏には緑が深かった釜石。自然豊かな釜石の秋の顔を一緒に見に行きませんか？「被災地に行ってみよう」「行くだけでなく現地の人と交流したい」「地域の魅力も知りたい」などの思いを実現する機会です！

日時:11月29日(木)夜～12月3日(月)朝
参加費:40,000円(大阪発)
※現地集合もできます。

●遠野まごころネットの関西事務所がオープン

岩手県遠野市を拠点に震災時から被災地の支援にあたっている遠野まごころネット。2012年6月に大阪市淀川区に事務所をオープンしました。情報発信や関西の団体との連携を通じた被災地支援を展開しています。

遠野まごころネット関西事務所HP
<http://magokoro-kansai.jimdo.com/>

●大阪と岩手のつながり



全国の地方公共団体は被災した地方公共団体への職員派遣を行っており、大阪では主に岩手県への人的支援を行っています。

大阪 ↔ 岩手

支援のかかわり

●被災した方の生きがいづくり～EAST LOOPプロジェクトへの協力

大阪のフェアトレード会社「福市」では震災の被害に遭い職を失った方たちへ、手仕事を通じた生きがいづくりを支援する「EASTLOOPプロジェクト」を展開しています。現地の方がハートのブローチをひとつひとつ手作りしたものをあおぞら財団でも販売協力しています。商品代金の半分が被災者の収入になり、これまで約1,600万円以上(8月末現在)のお金が被災地に渡っています。Facebookを通じて、購入者が作った方にメッセージを送れる仕組みがあり、被災者が生きがいを得られる工夫もされています。



EAST LOOPプロジェクトHP
<http://www.east-loop.jp/>



あおぞら財団で販売しているブローチの売り上げの一部は、2011年に被災地に寄贈したBDF車代に充てられます。



6月29日：「地域防災センター」で黙とう

午後からは津波に襲われた現場を視察。建物の土台を残して更地が広がる。鵜住居地区。200人（推定）が避難したが津波により生存者が25人だった『地域防災』

6月29日（金）釜石着
まずは現場を見、現場の声を聞く
前日午後8時に大阪を出発したバスは、29日午後1時に釜石に到着。まずは平田地区の仮設住宅へ。コミュニティスペース「みんなの家」で「居酒屋をやりたい」と明るく語る自治会副会長の伊藤さん。『釜石キッチンカープロジェクト』で店舗を再開した三浦さんのステーキ弁当に舌鼓。被災者の前向きな姿勢にみな勇気をもった模様
センター』など、この地で起きた数々の惨劇を聞き言葉を失う参加者

7月1日（日）釜石でエコツーリズム体験
世界遺産を目指す江戸時代後期の「橋野高炉跡」、大正時代に建設され、未だ現役で活躍する水力発電「栗橋発電所」、海と山の両方が織りなす豊かな自然とそこに生まれた文化。この地の為に今後、私たちに何が出来るとかを考える、滞在3日目。
午後2時、釜石を後にし翌朝5時に帰阪

6月30日（土）水泳大会に向け海岸でガレキ撤去
「釜石はまゆりオープンウォータースイム（8/5開催）に向け、根浜海岸の瓦礫を撤去。震災前は美しい海岸が広がっていたとのこと。ボランティア活動は「してあげる」ではなく「させてもらう」もの：ボランティアリーダーの厳しい言葉に心が引き締まります。

第5期環境フロンティア講座として『被災者のエコツーリズムツアー』を開催しました。定員を超える28名の参加者が集まりました。（6月28日夜大阪発、7月2日朝大阪解散）

第5期環境フロンティア講座

特集 6/28 岩手・釜石へ行こう！ ~7/2 被災地のエコツーリズム体験ツアー



6月30日：ゴーグルとマスクをつけてガレキ撤去（撮影：藤井克己）



6月29日：「みんなの家」の軒先で話を聞く



ツアーの宿泊は宝来館です。ツアーには西宮市在住の写真家、藤井克己さん（左）が参加してくれました。藤井さんには表紙など多数の写真を提供して頂きました。



7月1日：日本の近代化を物語る橋野高炉跡（撮影：藤井克己）

大阪経済大学
岸田幸太さん



大学入学

時の夢は、「自分の手で地域イベントを起こす」ことでした。そんな夢を今、子供から高齢者の方まで、世代を越えた方々と共に描き、作り上げることができています。私自身も初めは「環境」を固いイメージで捉えがちでしたが、実は「環境」は全く固くないものです。人々が気軽に集まれる場を提供し、笑顔を創りだしてくれる、そんな要素があります。まさに、それが廃油キャンドルナイトだと思います。来年から社会人ですが、このイベントが5年後、10年後も続く西淀川区の名物イベントになる事を願っています。そして、学生時代、最後のイベントを大成功させます！！

「西淀川

でこんな素敵なイベントがあるんだ！」これが、2年前の12月にこのイベントに出逢ったときの感想です。17年間西淀川で育ってきた私は「自分の育った地域で何か貢献したい！」という想いでこの活動に飛び込みました。現在は、他大学の仲間、地域の方々や高校生と協力・交流しながら環境啓発活動をしています。廃油キャンドルナイトは、環境への意識だけでなく、世代を越えた、人と人の繋がり大切さや温かさを教えてくれます。廃油キャンドルナイトの温かみ溢れる光が、これからもこの西淀川で灯り続けることを願い、活動をしています。



関西福祉科学大学
山崎由依さん

キャンドルナイト学生実行委員会

メール candlelight.1222.ny@gmail.com
ブログ <http://ameblo.jp/candlelight-1222-ny>
Twitter @sirobei1222
Facebook <http://www.facebook.com/candlelight.1222.ny>

一緒に遊んでいるスタッフが追いつけないほど、海辺で夢中になって走り回る子どもの姿



新連載

釜石あづまっぺ！通信

vol. 1

「海が教えてくれたこと」

三陸ひとつなぎ自然学校 柏崎 未来

私達の団体は釜石の鶴住居川流域を拠点に様々な支援活動等を行っています。ですが、そのなかで印象に残ったことがあります。それはこの夏に実施した子ども対象の日帰りキャンプです。釜石には魅力ある山、川、海という大自然があることを体感してほしいとの想いで実施。ただ、まだ海への恐怖心をぬぐえない方がいるなかで、海での活動に抵抗がありました。ですが、海との距離を少しでも近くできたらと考え、実施に至りました。

それはこの夏に実施した子ども対象の日帰りキャンプです。釜石には魅力ある山、川、海という大自然があることを体感してほしいとの想いで実施。ただ、まだ海への恐怖心をぬぐえない方がいるなかで、海での活動に抵抗がありました。ですが、海との距離を少しでも近くできたらと考え、実施に至りました。

三陸ひとつなぎ自然学校

三陸ひとつなぎ自然学校は①被災地支援ボランティアコーディネートや、②支援活動と地域を感じるツーリズムを併せた復興ツアープログラム、③郷土料理や文化を通じた、交流の場づくりを中心に活動を展開しています。

でもそれでも今すぐではなく、それぞれのペースに合わせて、少しずつ少しずつ。私達はそのきっかけづくりができたと考えています。

※あづまっぺとは方言で「あつまろう！」という意味です

※三陸ひとつなぎ自然学校 Facebookページ <http://www.facebook.com/sanrikuhitotsunagi>

あおぞらイコパで「キャンドル」を展示しました

廃油キャンドルで キャンドルナイト

キャンドルで「メリーリサイクル」

メリーリサイクル

大学生が中心となり、多くの方で開催しました

高校生もキャンドルを点灯しました

あおぞら財団の廃油回収の取組
2007年度から大阪府立西淀川高校がはじめた「菜の花プロジェクト」。菜の花を植え、獲れた菜種から油を作り、使い終わった油は回収し、せっけんや軽油の代替燃料（BDF）にリサイクルするという取組です。あおぞら財団では、この取組を地域の中学校、大学、ガールスカウト、地域住民の方たちと一緒に進めています。家庭の使用済み

天ぷら油の回収や菜の花栽培などを、世代を超えてつながりながら、楽しく取り組もうと活動をしています。

廃油キャンドルナイトとは

活動の環を拡げるために

今、夏至や冬至の夜に電気を消してキャンドルの灯りで過ごし、環境や生活について思いを巡らせようというキャンドルナイトという取組が広がっています。

「廃油回収の取組を、もっと多くの人に知ってもらいたい」という願いから、あおぞら財団では廃油で作ったキャンドルを使って、「キャンドルナイト in 西淀川」廃油キャンドルで大野川緑陰道路を灯そう」を2010年12月22日に開催しました。

回収した廃食油をリサイクルして作成した「廃油キャンドル」に、西淀川区の子どもたちがイラストを描いたシールド（風よけ）を巻いて、西淀川区のシンボル、大野川緑陰道路を彩りました。

大学生が主体となった「キャンドルがナイと！ in NY」

翌年の2011年の12月22日にも廃油キャンドルナイトを大野川緑陰道路で開催しました。この時は大学生の学びとなるようにと大学生による実行委員会を立ち上げ、大学生が主体となってこのイベントを企画・運営。イベント名を「キャンドルがナイと！ in NY（西淀川）」とし、多くの方の協力を得ながら実施しました。

2012年も大学生の実行委員会が中心となり、6月22日に夏至での廃油キャンドルナイトを開催し、現在12月22日の冬至での開催に向けて準備を進めています。みなさまお楽しみに。

（相）

キャンドルがナイと！
in NY（西淀川）

と き：2012年12月22日（土）

ところ：大野川緑陰道路

あおぞらイコパ

アコースティックライブなどの
楽しい催しもあります

「楽しく呼吸会」では こんなことをしています



肺年齢測定

自分の肺年齢を知っていますか？
簡単に計れる道具があるんです。その名も「ハイチェッカー」。
息を吹きかけるだけで肺年齢が分かるすぐれものです。
楽しく呼吸会でも試してみましたが、みなさん実年齢よりも30
歳以上の数値が出て愕然としていました。
西淀川の薬局には配備しているので、薬局が忙しくないときに
声を掛けてみて下さいね。無料で体験できますよ。タバコを
吸っている人はぜひ試してみてくださいね。



卵型のハイチェッカー。
(吹き口は使い捨てです。)



がんばってひと吹き



鼻を押さえるのがポイント

呼吸器疾患と栄養

呼吸器疾患の患者さんは、通常よりエネルギー消費が多いので、「メタボ食」になるくらいカロリーを
取る必要があります。しかし、「息苦しいために食欲がない」「ほとんど動かないので食べなくても
いいと思っている」など、息切れの為に動けなくなり食欲が低下してしまいがちです。しかし、栄養
を取らなければ筋肉がすくなくなり、よけい息苦しくなってしまうのです。

楽しく呼吸会では、夏バテ防止のために「豚肉」「トマト」等を使ったメニューをみんなで考えました。
おいしいメニューが続々と出てきて、「お腹が減ってきた～」なんてコメントも。何人かで食生
活について話しあうと、食生活の偏りが見えてきました。病気を良くするためには、薬だけでなく
栄養も運動も大切だと学びました。



一緒にメニューを考えるとよだれが…



お茶ゼリーで脱水症状防止



アジのフライもレモンをかければさっぱり

体験！
呼吸リハビリ
テーション

呼吸を楽に しませんか？

◆呼吸？リハビリ？

リハビリをすれば呼吸が楽になること、皆さんご存知でしたか？

内科的指導や薬の指導も呼吸器疾患の患者さんには大切なのですが、運動療法も同じくらい大切です。呼吸器疾患の患者さんは、肺機能が低下しており、肺機能を補うために、肩に力が入ってしまっています。つまり、筋肉で呼吸を補っているわけです。この筋肉を鍛えることで呼吸が楽になります。筋肉は鍛えれば必ずこたえてくれます。「筋肉は裏切らない」のです。しかし、肺機能が低下した患者さんは、息苦しさや避けるために、ドンドン動かなくなり、身体機能が低下しがちなために、筋肉が落ちてしまいます。だからこそ、苦しい中でも筋肉を鍛える呼吸リハビリが求められているわけです。毎日20分以上の散歩で持久力をつけること、筋

肉トレーニングをすること、柔軟性のトレーニングなどが必要で、運動をする準備体操として、肩の筋肉をほぐす体操をやり

ます。肩の上げ下げや首を回したり、簡単な動きですが、この準備体操をするだけで、ずいぶんと楽になります。呼吸器疾患でない私たちでも、頭がすっきりするのでこの体操はお勧めです。

◆どこで呼吸リハビリを受けることができる？
今は、2週間の教育入院として西淀病院で治療を受けるこ

とができます。しかし、まだ呼吸リハビリの重要性が広く伝わっていないこともあり、利用者は多くありません。

西淀川で呼吸リハビリ治療を行う医療機関を増やすこと、呼吸器疾患の患者さんを掘り起こすこと、患者さんに呼吸リハビリの重要性を理解してもらいことなど、課題はたくさんあるのですが、地域医療ネットワークを築いて、公害患者さんをはじめとした呼吸器疾患の患者さんが少しでも生きやすくなるお手伝いができればと思っています。

林

【呼吸トレーニング】

～体の筋肉をリラックスさせましょう～

●肩をすばめて、
ポンッと下ろします。(3回くり返す)



みんなで楽しくレッツ・トライ！ 楽らく呼吸会

全国の公害患者のアンケート調査を2003年に行いました。長年の病気で、息苦しさを訴える人が多くいました。そこで財団では「息切れ」とうまくつきあう呼吸リハビリテーションの普及に取り組むことになりました。2010年から西淀川で呼吸リハビリの輪を広げるために、千北診療所と姫島診療所で楽らく呼吸会を2

遠足に行ったりしています。遠足に行く前は「今日は雨が降りそうだからしんどい。歩けない。」なんて言っていました。が、海岸をみんなで歩いていると楽しくなって、帰りは笑顔なことで事もありました。

1人で呼吸リハビリを実践す



みんなで筋力トレーニング



みんなで矢倉海岸に遠足へ。思わず笑顔がこぼれます。

か月に1回ほど開催しています。公害患者さんだけでなく、呼吸器疾患の患者さんが集まって、呼吸リハビリの体験をしたり、栄養の勉強をしたり、

るのは大変でも、みんなで悩みを共有して、笑いながら一緒にやってみるとできることも多いのです。これからも、細々と続けていきたいと思っています。



呼吸法をチェック

忙中 筆

肺と心をつなぐ聴診

「聞く」ではなく「聴く」ことが大切だと日々痛感！

あおぞら財団とつながりある人からエッセイを寄せてもらっています。
西淀病院・理学療法士の廣野克俊さんです。



廣野 克俊(ひろの かつとし)

大阪市西淀川区在住。1985年京都府丹後地方の生まれ。西淀病院リハビリテーション科の理学療法士。2010年10月に長崎呼吸器リハビリクリニックにて研修を受け、西淀病院で呼吸リハビリテーションに取り組んでいる。

動くとしんどいです

呼吸リハビリテーション(呼吸リハ)で関わる患者様はその重症度に関わらず「じっとしていると大丈夫だけど、動くとしんどい」と訴えられます。その表情は、暗く不安げで、痩せて頸部は筋張り、つらそうに肩で呼吸されています。さらに、食欲もありなく、ネガティブな感情に支配されているように感じられます。

「動くとしんどい。」と訴えられます。その表情は、暗く不安げで、痩せて頸部は筋張り、つらそうに肩で呼吸されています。さらに、食欲もありなく、ネガティブな感情に支配されているように感じられます。

腹式呼吸ができているかチェック中

いざ私たちが、呼吸が苦しい気持ちを理解しようとしても、やはり難しいものです。「動くとしんどい。」きつと海にダイブして酸素ボンベの酸素が無くなり、吸っても吸っても呼吸

が苦しく、深い海にひとり取り残されているような、とても不安な状況”なのではないかと思われま。そんな過酷な状況が、日常生活の中で繰り返されているのだろうと想像できます。

肺から声にはならない切実な訴えが

普段は、入院患者様を担当させていただいています。入院での呼吸リハは毎回マンツーマンで、聴診器を用いて肺の状態を確認しながら進めるよう努めています。

「動くとしんどい。」同じ訴えでも、各々の肺の音に違いがあることがよくわかります。一見よく動いていて元気そうな方で

も、肺から声にはならない切実な訴えが聴診器を介して聴こえることが多々あります。

一方、楽らく呼吸会では、集団で実施するため、マンツーマンで対応することができない難しさがあります。楽らく呼吸会で息切れを緩和する呼吸法や体操の指導をさせていただいた際に、「ただでさえ息が苦しいのにこんなことできない！」「とお叱りを受けることがあります。」「どうすればもっと楽になりました。」「どうすればもっと楽になってもらえるのだろうか？」「まだまだ勉強不足だな。」「と反省することも少なくありません。

呼吸リハでは、その方に合った方法で

肺は正直だと思っています。肺の音を聴くと、本当につらいのだと痛感させられます。まるで痰で溺れそうな音、息が吐きにくい音、呼吸のたびに肺が硬くて悲鳴をあげている音など。各々肺の訴えは違います。同じ肺でも聴診するたびに音が変わっていたり、音のする場所が変わったりします。だから呼吸リハでは、その方に合った方法で取り組んでいただくことが効果を上げるポイントであると実感しています。

これから「聞く」ではなく「聴く」と心を含めて「聴く」という姿勢で呼吸器患者様と向き合っていきたいと思っています。

四日市と倉敷の公害裁判資料を整理しています



四日市

あおぞら財団の5階にある「西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）」はとても小さな資料館ですが、公害裁判の資料整理をがんばっています。西淀川公害の裁判資料を電子化して「記録で見える大気汚染と裁判」というウェブサイトで公開することができました。裁判資料は、整理をすれば使い勝手のいい資料です。公害の原因、被害者と加害者の言い分、根拠となるデータなどがそろっているからです。

2011年度から3年間かけて、四日市と倉敷・水島の公害裁判の資料を整理して「記録で見える大気汚染と裁判」にて一般公開する事業を行っています（独立行政法人環境再生保全機構事業）。ここでは、整理して見えてきたことを紹介します。

環境再生保全機構事業）。ここでは、整理して見えてきたことを紹介します。

林



澤井資料に入っている公判傍聴券



青焼きの裁判記録

四日市の公害裁判の資料は、名古屋の野呂汎法律事務所（野呂）に所蔵され、水色の背表紙で製本されています。四日市公害裁判が大気汚染裁判のトップバッターなわけですが、時代が違うなあと思うのは、これらの資料がすべて青焼きコピーであるところです。保存状況が良いので、まだ退色していません。また、資料は四日市再生公害訴訟の経験をしています。



野呂法律事務所澤井余志郎さんと目録入力する鄭佳琪さん

害市民塾の澤井余志郎さんが所蔵しています。こちらでも当時のニュースレターなど、貴重な資料がいっぱいあります。

倉敷・水島



岡山あさひ法律事務所にある裁判記録とみずしま財団の裁判記録との照合作業



検証調査にある水島コンビナートの説明写真

倉敷の公害裁判は、水島コンビナートからの排煙によって引き起こされた大気汚染を争った裁判です。裁判の記録が法律事務所とみずしま財団の2か所で保存されています。みずしま財団はあおぞら財団と同じく、公害地域再生を目指して活動する団体です。最初にみずしま財団に保存されている資料を目録に取り、法律事務所の所蔵資料と照合作業は、今後の資料の活用について考える楽しいひと時となっています。



目録入力する森久美さん



独立行政法人 環境再生保全機構
「記録で見える大気汚染と裁判」
<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/index.html>

Cafe fu~(カフェフー)

自家焙煎でおいしいコーヒーと、「風のとも西淀川」で作られたクッキーをいただきました。チーズクッキーはチーズの風味がきいて、クランベリーがたっぷり入ったクッキーはサクホロッとボリューム満点。水仙福祉会が管理している丹波農園から季節に応じたジュースが届きます。

所 西淀川区姫島6-3-2

休 土曜・日曜・祝日

営 10:00~16:00

☎ 06-6477-1089

HP http://www.suisen.or.jp/cafe_fu/



さっぱりした
おいしさで人気の
季節のジュース



味わい深い自家焙煎コーヒー

クッキーを作っている
田中さん、八嶋さん、
西川さん、中野さんと
店長の柴垣さん

burari gururi
ぶらりとぐるりと
西淀川めぐり
ホッと一息つける
コーヒー&スイーツ 第4回

(イラスト:とりやまひろこ)



ラ ファリーヌ名物の「ふたとき」



シャキシャキりんごとシェフの焼きたてプリン

La farine(ラ ファリーヌ)

このケーキの差し入れがあるとあおぞら財団の職員のテンションは一気に上昇します。名物は「ふたとき」。羽二重のようなスポンジに軽いクリームが入っています。「シャキシャキりんごとシェフの焼きたてプリン」はプリンにリンゴが入っていて新食感。他のケーキもおいしいです。喫茶ではオーガニックのコーヒーと紅茶がいただけます。姫島駅すぐです。

vol.1
新連載

柏里の虹色コラム

商店街コミュニティづくり

JR塚本駅前の商店街
サンリバー柏里
藤井巖のコラムです!



柏の里・休憩所

商店街は地域の1番身近な公共の場です。ですから、商店街事業やイベントは誰に対しても平等でなくてはなりません。常にその事を注視し、第一に考えます。こんな例題があります。「ここに椅子が7席あります。お客様は全員で10人来ました。座れないお客様は何人いますか?」という問題です。私は「7個の椅子を繋げて並べれば、みんなが座れる」と言う柔軟な考え方の答えを大人社会の環境が持っておく必要があると考えています。そして、商店街側も「お客様同士が思いやれる状況」を作れる様なコミュニティを浸透させておかねばなりません。その場で「座れない3席の内の1人にはなりたくない」とか、「他人と同じ空間には馴染めないで座らない」「3人!」という発想では余りにも閉鎖的な考えで寂しくないですか?

サンリバー柏里商店街 コミュニティ施設・柏の里の多目的室では、健康体操教室で地域のお客様の健康促進を提案し、折り紙・大人の塗り絵などの文化教室を通じて、ほどよい距離の顔見知りを作り、例題の答え作りを実践しています。その流れは普段、無料休憩所においても顔見知り作りの“輪”が広がり、知り合いの知り合いがどんどん繋がりが合っています。コミュニティ柏の里のコンセプトは「必要な方が、必要な時に、必要な分だけ」をモットーに利用して下されば良いと考えています。そんな商店街はいつでも開放的で“お節介焼き”が共存共栄している公共の場。1番身近な地域コミュニティの発信拠点なのです。皆さんもそれぞれお近くの商店街に来て、新しい“輪”を探してみませんか?



健康体操の様子

西淀川記憶あつめ隊

Vol.3

あおぞら苑の利用者である浜田しづゑさんから
昔の大和田についてお話を伺いました。

2010年5月31日
聞き取り



浜田 しづゑさん

◆淡路島から大阪へ

浜田さんは1923(大正12)年、兵庫県南あわじ市(旧・西淡町、松帆村)生まれで、実家は農家。米、小麦、スイカ、サツマイモを作っていました。真如実科高等女学校(現・兵庫県立三原高校)で裁縫を習い、卒業して1年後、満19歳で結婚します。夫は遠縁にあたる陸軍の職業

軍人でした。結婚後すぐ大阪に出てきました、約1年後、夫はスマトラへ出兵してしまったので、しづゑさんは長男とともに淡路島へ戻りました。昭和22(1947)年、夫がスマトラから復員してきたので、塩干屋を営む夫の兄を頼って大阪市此花区伝法へと移ります。

◆大船市場で乾物屋を開業

1950(昭和25)年ごろ、伝法から西淀川へ移住して、大和田中央公園のそばにあった「大船市場」ができると、乾物屋「うつばや」を開業しました。当時



右の住宅群は大船市場があった場所です。左手は大和田中央公園。

は野田の中央市場まで仕入れに行っていたそうです。市場は、近くに大型スーパーができて商売が厳しくなり、腰を悪くしたこともあり、62歳のとき(1989年)店をたたみました。現在は、

大船市場はありません。街の様子が変わり、子がいぶんと違ったのだなとお話をうかがっていて思いました。

◆一番困ったのは水の被害

日々の暮らしについては、大和田に越して来た

とき、まだガスは通っておらず、ガスが通るまで、へっついさん(かまど)で米を炊いていたそうです。乾物屋をしていた事もあり、塩干の入っていた木箱を燃料にしていたので、薪に困ったことはなく、近所にも分けてあげていました。水道はありましたが、水道管が細く、水の出が悪かったそうです。近所に米を洗わせてもらい

に行ったりもしたくらい、近所と距離が近い生活をしていました。ガスが通ると同時に水道管も太くなり、便利になりました。

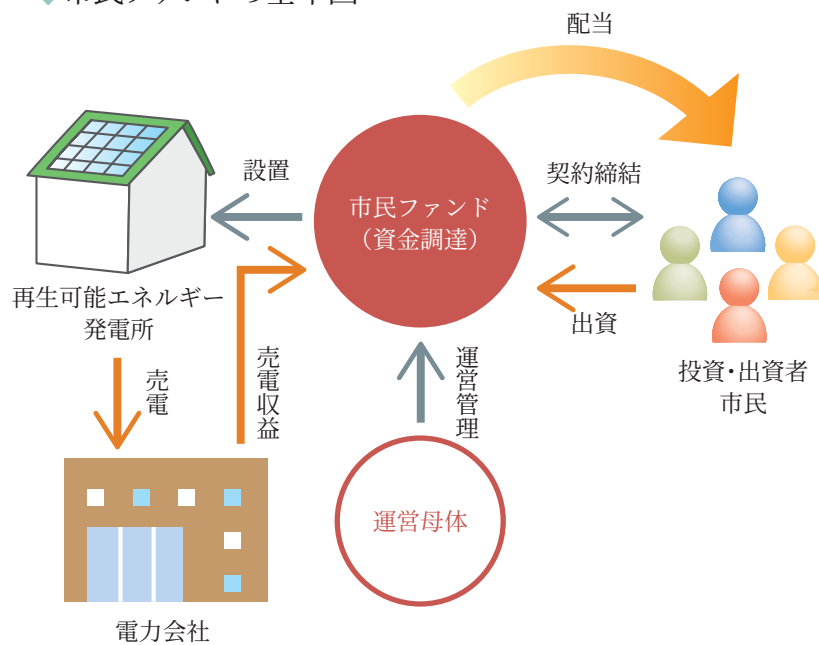
一番困ったことは水の被害でした。大和田の抽水場(ポンプ場)は小さく、冠水や洪水がよく起こりました。大野に抽水場が出来てから冠水することなく困らなくなりました。1961(昭和36)年の第2室戸台風のときは家で避難していましたが、水につかった畳を処分するのが大変だったこと、娘さんが学校から舟で帰ってきたことを覚えていました。

あとは、淀川通を走る市バスが一時廃止になったときに、近所の人みんなで署名をして復活したことを話してもらいました。

波乱万丈の人生を、生き抜く強さを教えてもらったように思いました。大船市場ことを覚えている人、写真を持っているよという人がいればぜひご連絡下さいね。

林

◆市民ファンドの基本図



ような仕組みを作れば、地域の活性化にも寄与できます。

おわりに

再エネ特措法の施行によって、再生可能エネルギー電力事業の採算性は大きく向上し、事業者のみならず市民や地域によるソーシャルビジネスとし

ての可能性が生まれています。今こそ地域資源を活用する知恵を出し、さまざまな主体と協働して再生可能エネルギー普及に取り組むことによって、持続可能な地域づくりの基盤を作って行きましょう。

◆大阪市内初! 市民共同発電所 ECOまち・さわやか発電所



屋上にあがり見学もできます

みなさんは、市民共同出資で建設する自然エネルギーの発電所の取り組みをご存知ですか。大阪市内にも東淀川区に太陽光発電所があります。ECOまちネットワーク・よどがわ(事務局:大阪経済大学)が、介護老人福祉施設「さわやか苑」の協力で屋上に建設した『ECOまち・さわやか発電所』です。2009年12月に発電を開始しました。ECOまちネットワーク・よどがわにはあおぞら財団も団体会員として運営にかかわっています。

建設後2年半が経ちましたが、毎年の発電量は予想の1万kWh(一般家庭3.5軒分の電力)を上回るなど、順調に発電しています。こういった市民共同発電所が西淀川区にもできないものか…あおぞら財団も模索をしているところです。建設候補地として心当たりがある方は、ぜひあおぞら財団までご連絡ください。●

市民・地域が進める

再生可能

エネルギー普及

～固定価格買取制度をどう活用するか～

気候ネットワーク主任研究員

豊田 陽介

はじめに

近年、日本のさまざまな地域において再生可能エネルギーの取り組みが進められようになってきました。特に3・11以降は、原発が変わるエネルギーとしての期待が高まり、さらに2012年7月1日からスタートした再生可能エネルギー特別措置法(通称 固定価格買取制度)によって、経済性の面から困難であった再生可能エネルギーの事業化も可能になり、企業のみならず市民・地域が主体になった取り組みの可能性が広がりました。

全国に広がるファンド型市民共同発電所の取り組み

ターゲットとして以降、現在約200基の発電所が全国に広がり、その形態も寄付型、出資型、地域活動型など多様化してきました。

例えば、飯田市ではNPOと行政が協働し、出資型の市民共同発電所づくりに取り組み、飯田市内の保育園・幼稚園・公民館などに太陽光発電を設置しました。設置に必要な費用は、ファンドをつくり全国の市民から出資募集を行いました。発電された電力の売電収入と、商店街での省エネ投資回収事業の収益を併せてファンドの出資者に返還される仕組みになっています(市民ファンドの基本図)。

前述した飯田市では、「地域MEGAおひさまファンド」の募集が始まっています。募集総額は4億円で、地域に15～50kW程度の発電所を複数設置していく取り組みをはじめ、地域の再生可能エネルギー事業に出資されます。

湖南市では「コナン市民共同発電所プロジェクト」として、信託会社を通じて1口10万円で総額2000万円を募集し、市内のみで使える商品券「地域循環券」として出資者への償還や配当に充てる取り組みが始まろうとしています。

市民の出資によって再生可能エネルギーを普及させていくことは、自ら設置できる条件(費用、場所)がない市民にとっても参加でき、お金の流れを変え、持続可能な経済・社会をつくりだしていくことにつながります。また、地域を中心にして出資を募り、地域に還元する

ありがとうございます

(2012年5月～2012年7月 敬称略・順不同)

●入会

松村 正治

●お助けボランティア

浅井 真二

大野 みさ子

曾我 翔磨

左成 志朗

宮本 由貴

大阪市立淀商業高校
ボランティア同好会

●寄附・寄贈者

神戸大学大学院人文学研究科

松村 暢彦

原田 智代

沢 勲

傘木 宏夫

入江 智恵子

澤井 余志郎

朝日新聞社

井上 有一

浅井 真二

藤本 典昭

大阪視覚障害者の生活を守る会

小川 和利

佐野 郁夫

長瀬 文雄

功刀 恵美子

吉本 英雄

山崎 圭一

西口 勲

蔵本 幸治

植田 和弘

宮本 由貴

伊藤 卓次

酒井 健一

特定非営利活動法人西淀川福祉・健康ネットワーク

石井 琢也

柏原 純夫

(株)キクテック

特定NPO法人イーパーツ

西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～



【廃油回収量】

総合計10,004ℓ

(2009年7月から2012年7月迄)

大阪府立西淀川高校等の
教育関係施設や佃連合振
興町会等、地域での廃油
の回収をすすめています。

読者の声募集

会員のみなさまの日ごろの活動や、アピールしたい事、またはあおぞら財団
へのご意見や、りべらのご感想、あふれる西淀川愛など、多種多彩な原稿を
寄せていただければと思います。文字数は200字です。原稿は、表題を「会
員コーナー投稿」としてE-mail(webmaster@aozora.or.jp)またはFAX
(06-6478-5885)でお送りください。皆さまのご参加をお待ちしております。

りべら

No.125 2012年10月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人:林 美帆、小平 智子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885

http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)パード・デザインハウス

定価:一部400円(郵送料込)

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



あおぞら財団
The Aozora Foundation
公益財団法人 公害地域再生センター

高校生インターン日記

初芝立命館高校より6日間のインターンシップ生を
受け入れました

●実習を終えて(抄録)



フードマイレージ紙芝居を説明
左 安辺章平くん、右 天野宣紀くん

あおぞら財団では、なぜこの
財団ができたのか、環境問題
や体が不自由な人のための
防災方法など、たくさんの事
を学びました。僕が一番印象
に残っているものは、大阪国
際交流センターで行ったフー
ドマイレージの体験授業の
見学+補佐係でした。この授
業では、普段買い物して食べ
ているものは、どこから何で

運ばれ、どれだけの二酸化窒素を排出しているのかをゲームを通し
て学ぶ体験授業でした。食材が届くまでに出る二酸化窒素の量を
チェックした時、食材が重くて遠い物は二酸化炭素の排出量が多量
でした。この授業を見学した後、これからは産地も気にしながら、買
い物をしようと思うようになりました。あおぞら財団に行っていなけれ
ばこんな体験はできませんでした。普段できないことを体験したり
学べたりして良い職業体験になりました。(1年 天野宣紀)

緑道散歩

西淀川区区内を貫く全長3.8kmの大野川緑陰道路。
区民いこいの緑道の風景を紹介します。

夏になると毎朝、大野川緑道の森はクマゼミの大合唱。クマゼミが鳴
きやむ午後はアブラゼミの鳴声も聞こえます。ツクツクボウシが聞こ
えたらラッキー。私は1回だけ聞きました。今年の『セミのぬけがら調
べ』では、クマゼミ3093個、アブラゼミ89個。福～大野区間は、クマゼ
ミよりも自然が豊
かな場所に棲むア
ブラゼミが1割も
いました。セミのぬ
けがら調べでは太
陽の下、子どもたち
はセミより元気に
(?)かけめぐって
いました。



スタッフツイッター 編集後記



りべらをリニューアルして1年たちました。「見てるよ」「読んでるよ」と
声を掛けて下さる方が多くなってきました。一番おもしろかったのは
記憶あつめ隊に出てもらった和田さんが、「読んでえ」と柏里商店
街で声を掛けられてビックリしたとか。西淀川の雰囲気がいろんな
人に伝わって、楽しい気持ちになるような紙面にしていきたいです。



私事ですが、今夏、父が定年で退職しました。感謝の気持ちでいっぱい
です。今後は財団で活躍するシニアボランティアの方々のように、
社会貢献できる場をみつけて欲しいと密かに願ってはおりますが、
せっかく休みになった所に追いついたような事を言うのも酷なので、
ばちばち様子を見て小出しで話をしていこうかと思っています。

西淀川あおぞら発電プロジェクト ～みんなでつくろう！太陽光発電所～

かつて公害に苦しんだまち・大阪市西淀川区を「環境再生のまち」として推進するため、区内の未利用空間(屋根や空き地等)を活用して太陽光発電設備等を設置する「西淀川あおぞら発電プロジェクト」を実施し、再生可能エネルギーによるエネルギーの地産地消に取り組みます。



設置候補の工場屋根

設置施設を 募集中

西淀川区内の工場などの屋根、空地で、太陽光発電設備(10kW以上)が設置可能な敷地を募集中！



〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

より多くの方に「りべら」を知っていただくために、発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える会員紙として、これまで年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。紙面上では、大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思ひます。

今回、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数を増やしたいと考えております(1500部→3000部)。そのための印刷資金として、あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思ひます。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。どうぞ、ご協力お願いします。



【りべら広告掲載費】

中面1/3頁:3万円/回

中面全面:9万円/回

お問合せ先:あおぞら財団まで

【広告】

ディサービスセンター

あおぞら苑



あおぞら御膳



あおぞらの湯



午後のひととき

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思ひ設立しました。

【お問い合わせ】

TEL:06-6475-0111 FAX:06-6475-0114

URL: <http://aozoraen.com/>

運営:NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号

開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)

〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号

開所曜日:月曜日～金曜日 利用人数:1日20人



JICA関西国際教育セミナーにてフードマレージ買物ゲーム(2012.8.9)



西日本の選抜された高校生(若武者)が公害の学習にやってきました。アサヒビル若武者育成塾(2012.8.3)



あおぞら
フォトギャラリー



お知らせ

●第11回全国路面電車サミット

日程:2012年11月16日(金)~18日(日)

会場:1日目:住吉大社吉祥殿、2日目:堺市総合福祉会館、
3日目:阪堺電車沿線各地

主催:全国路面電車サミット2012大阪・堺実行委員会
※道路環境市民塾も共催しています

●サイクル&エコカーニバル in池田

日時:11月4日(日)10:00~15:00 (雨天決行)

場所:宣真高等学校

主催:池田市、池田市教育委員会、(社)大阪府トラック協会河北支部、
あおぞら財団



みんな笑顔で走りました。タンDEM
自転車の体験会(大野川緑陰道
路)●主催:地域の学校で学ぶ視覚
障害児(者)の教科書等の保障を求める会●協
力:大阪でタンDEM自転車を楽しむ会(2012.7.22)

●環境保全戦略講座「エネルギー問題と環境アセスメント」

日時:10月27日(土)9:30~17:00、11月11日(日)11:00~16:30

会場:新大阪丸ビル新館・関西電力堺港発電所PR館

主催:独立行政法人 環境再生保全機構 協力:あおぞら財団

●環境保全戦略講座

「グローバルで考えよう~生物多様性企画書作りワークショップ」

日時:12月15日(土)12:00~17:50、16日(日)10:00~15:00

会場:岡山市デジタルミュージアム会議室

主催:独立行政法人環境再生保全機構

協力:あおぞら財団、みずしま財団



あおぞら
ビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人は
ぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)/要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ



あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階(TEL)06-6475-8885
(FAX)06-6478-5885 電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、
税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙な
どをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、学
生:年一口2,000円、法人・団体:年一
口10,000円

●会費・寄附の振込先

※郵便振替口座 00960-9-124893

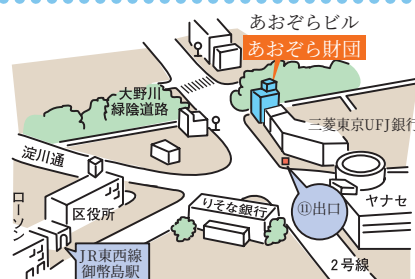
加入者名:あおぞら財団

※三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店
普通 3764689 口座名義:あおぞら
財団賛助会員

※りそな銀行 歌島橋支店
普通 5288117 口座名義:あおぞら
財団賛助会員



会員・寄附募集



- JR東西線御幣島駅②出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分